

新しい年に、新しい気持ちで！

新しい年2006年が明けてなにかと忙しい毎日をお過ごしのことと思います。毎年「新年はこう思っていたけれど終わってみれば……」と反省することも多いのですが、今年は「しっかりとやるべきことをやって充実した1年」にしたいものです。たよりも充実した内容に思っております。1月は村井信二弊社社長と水谷俊樹全国エム式水耕技術研究会長に新しい年を迎えるの思いを語っていただきました。今年が皆様にとっても充実した年になることを祈念いたしております。(編集子)

エム式水耕研究所

代表取締役社長 村井信二



平素はなにかとお世話になりありがとうございます。農業を取り巻く環境も依然厳しいものがありますが、経営が軌道にのっている所とそうでない所との二極化傾向が一段と加速されてきているように思います。その差は考え方の違いにあると考えています。

水耕は儲からない…ではない

空パネルが並んでいたり、揃いが悪く歩留まりが悪かったり、病気を出したり……少し日ごろ目を配っておけば被害を抑えることは可能です。装置の持っている能力を最大限に活用する運営、生産をもっと貪欲に、あわせて日常管理を小まめに…と生産者としての原点を忘れているのではと思います。確かに単価安の環境から量をとる事を放棄されている方もありますが、無駄を省き、いい物を作れば手間も少なく量は稼げ経営は成り立っていきます。気持ちで負けて、やることをやらな

いですませている。こんな事例を見ると寂しいし「元気出せよ！」と思います。

再投資も大事な打開策

「儲からないから再投資できないし、しない」近年の単価安から、この考え方が蔓延しているように思います。一昨年12月のたより「No85」で紹介したハウス屋根材張替えで収量が20%増加した例を報告しました。光量減少は資材劣化によるもので交換しないと改善できませんが決断された。結果は増収を実現でき投資額は短期間で回収できた。最近の例では油代高騰で無加温期間を延長、ハウス温度を低く抑えるなどコストカットのみに目がいき、他の策を併せず収量減、病気発生などを招き逆効果となった事例など「単なるケチケチ作戦」では弊害も招きかねません。必要なものへは投資し前向きに解決をしていく姿勢・特に気持ちが大切ではないかと痛感しています。

全国エム式水耕技術研究会

会長 水谷俊樹



仲間と生育状況話し合う水谷さん(左)

永年研究会を引っ張ってこられた石川会長よりバトンを受けての2代目となりますが、「自分でできることを踏まえて身の丈に合った活動」をスローガンに会員の皆様と共に進んでまいりたいと思っております。

栽培の基本からの見直しを

自分自身は親父の後を引き継いで本格的に始めてまだ5年と人より遅くスタートしただけに水耕そのものと正面から向き合っており取り組んできたつもりです。昨今の周りの状況を見ていると「もう一度栽培の基本から見直しがいるのでは」の危機感を強く感じています。肥培管理・PH管理などの基本に慣れ、油断があるのではないのでしょうか。農薬取締法改正に伴い使えない農薬が増え、夏場にできない人が増加した。農薬頼みの栽培モードに陥っていたことになる。水耕は養液管理、ハウス環境管理でいくらかでも対応が可能な農法であることをもう一度思い出して、この管

理幅の狭くなった中で新たな栽培体系構築が必要です。これは自分が努力することで十分にできることでしょ。

止まってはおしまい前へ

新しいものに果敢にチャレンジすることを自分は大事にしている。酸性水活用など試みたのもその思いから。敵は目に見えないので、当方には観察力と論理的な思考がどうしても必要となる。勝負に勝ち負けはあるが、それらの結果をつなぎ合わせると一連の筋が見えてくる。チャレンジしているとそういう喜びに出会える。留まってはダメである。

研究会もリニューアルを

成果のあがったことは研究会で公開し、さらに広い場で活用できる検証など多くの人が恩恵に浴することができる運営など検討も必要ではと考えている。とりあえず会員諸氏の意見も取りこむ場の設置などできることから手がけていきたいと思っている。その節はご協力をお願いしたい。